

要約

【目的】 女性にとって妊娠出産ほど、アイデンティティや関係性の変化に富み、適応能力を問われることはない。本研究は、妊婦の孤独感の程度と心身および社会的関連要因を探索することを目的に行った。特にシングルマザーに焦点をあて、非シングルマザーと比較分析を行った。本研究においてシングルマザーは「婚姻関係を問わず、今回の妊娠出産において出産後近い将来に、ひとり親になる、もしくはなるかもしれないと考えている女性」と定義した。

【方法】 自記式質問紙を用いた横断的量的研究デザインである。孤独感の測定には、改訂版 UCLA 孤独感尺度を使用した。その他ソーシャルサポート、DV スクリーニング尺度、母性役割の同一化、マイナートラブル、デモグラフィックス等を質問紙に含めた。都内近郊の 5 つの産科医療施設において、妊娠 34 週以降の妊婦を対象に研究参加を依頼した。分析ソフトは SPSS version 22 を使用した。

【結果および考察】 1675 部の質問紙を配布し、有効回答は 1383 部 (82.6%) だった。孤独感の平均は 33.1 点、中央値 31 点であった。最も孤独感の高い妊婦は「先天性胎児異常を指摘されている妊婦」で平均 42.3 点、次いで「シングルマザー」で平均 38.8 点、「中卒の妊婦」で平均 37.0 点であった。孤独感が高い妊婦の点数は、国際的に社会的脆弱性をもった妊婦の平均点と類似していた。重回帰分析の結果、サポートの満足度が低くサポートの量が少ないほど、DV スコアが高いほど、精神疾患の既往があり世帯収入が 600 万円より低いほど、孤独感が高かった。また孤独感が高いほど、母親役割への適応が低かった。孤独感とマイナートラブルの関連はほとんど認められなかった。シングルマザーは 35 名 (2.5%) であり、非シングルマザーとの比較分析の結果、シングルマザーは低年齢、低学歴、低収入を背景にもち、流産死産中絶の既往をもつ者が多く、DV 陽性が多く、サポート量が少なかった。このような背景をもつシングルマザーは、非シングルマザーに比べて孤独感が高く、マイナートラブルの発症頻度が多かったが、母性役割の同一化の程度は変わらなかった。

【結論】 孤独感の高い妊婦の背景となる要因を早期にみつけ、孤独感の高い妊婦は母親役割への適応が低いことから、看護職による継続支援が必要である。